

# 日本政治学会 会報

## The JPSSA News

No. 32

DEC. 1996

### ご 挨拶

理事長 佐々木 毅

日本政治学会の新しい理事会が本格的に活動を始めるにあたり、理事会を代表して今後の活動方針を述べさせていただきます。

かつて70年代に私が幹事を務めていた時期と比べ、会員数は2倍近くにまで増加した。この間、各理事会は会員の動向に配慮しながら、懸命の努力を続けられてきたことは、私自身、理事として決定に参加しながら、身近で見聞してきたところである。例えば、研究会の午後部会の数はかなりのスピードで増加したし、最近では報告者がペーパーを研究会のために執筆するという習慣も定着しつつあるようである。年報にも相当部分で公募制が採用され、会員が購入するというシステムが整った。研究会への海外からの報告者の参加は私が国際交流委員長の時が始まったが、その後は慣例として定着し、今後は非欧米圏との交流も始まることと決定されている。また、IPSA との関係でも日本の役割は大きくなり、分担金の負担などで更なる貢献が求められそうな雲行きにある。

新しい理事会としてはこれまでの理事会のこうしたご努力を継承しつつ、なお、一層、会員諸兄の要望に応えるべく務めるつもりである。こうした関連において研究会のあり方において改善すべき点はないか、年報の公募制を更に有意義な形で定着させるためにはどのような方法が必要であるか、国際交流に学会としてどう取り組むのが望ましいか、こういった点について会員の方々から理事の方々及び事務局に対して率直な要望が寄せられることを大いに期待したい。

私見としては、若い会員の研究発表の場をいかに増やしていくかが大きな課題であるという認識を持っているが、企画委員長などからの発表の呼

び掛けに積極的に応じていただくとともに、その具体化の方策についても建設的な提言をいただきたい。年報の公募論文についても同じような協力を求めたいと考える。また、97年8月にはソウルでIPSAの世界大会が開催され、日本からの参加を期待する声極めて大きいが、特に、若い研究者たちがこうした機会を積極的に利用されることを祈念したい。

その一方、学会の運営に当たる方々の多忙な奉仕についても是非ともご理解をいただかなければならない。政治学会の活動はほとんどが各理事を初め、会員のボランティア活動によって支えられており、特に、開催校に対しては経済面でもご苦労をお願いしなければならないのが現実である。こうした協力と努力に対して、会員の方々が正確な認識と正当な評価をもたれることをこの際、是非ともお願いしておきたい。

ところで1998年の研究会は丁度、日本政治学会創立50周年にあたる。過日、IPSAの執行委員会において雑談でこのことを話題にしたところ、各国の代表から祝福を受けた。セオドア・ロウイ教授(米国)はアメリカ政治学会の100周年が迫っていることを話題にし、そこから各国政治学会の歴史談義へと議論が発展した。この50周年は当然のことながら、われわれが過去を顧みるとともに、未来を考えるよい機会である。私自身もこの機会を重要なものと考えているが、理事会としてもどのようにこれを取扱うべきか、会員の方々のご助言をいただきながら、思い出に残るような機会にするよう努力したい。特に、先輩の方々のご助言を切望する次第である。

## 『1998年度 年報政治学』掲載論文公募について

1998年度年報委員長 北 岡 伸 一

1998年度年報は、下記の二つを特集テーマとして編集します。掲載論文の約半数が公募論文となりますので、広く会員各位の応募を歓迎します。

1) 1998年度特集テーマ

I. アジア主義

II. 日本政党史の諸問題

2) Iについては、年報委員会を中心に研究会を組織し、その中から5～6本を年報に掲載するほか、公募論文からも1～2本を掲載します。日本外交におけるアジア主義的要因に関し、外交史または思想史の立場から考察した論文を求めます。個別的な研究でも総合的な研究でも結構です。

3) IIについては、公募を原則とし、4～5本の掲載を予定しています。明治憲法下ないし55年体制成立以前の政党史に関する論文を求めます。

4) 応募の要領は以下の通りです。

- ①応募希望者は、97年3月末日までに、同封の申込用紙を用いて応募登録をする。
- ②論文提出期限は97年11月末日とする。
- ③論文は400字詰原稿用紙60枚以内（注・図表を含む）、ワープロ・プリントの場合はA4サイズ、40字×30行、24000字以内を原則とする。提出部数は3部とする。
- ④公募論文については、年報委員会の下に設置する審査委員会で採否を決定する。また同委員会から執筆者に対して手直しを求めることがある。
- ⑤申込用紙および提出論文は下記まで。

〒277 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学法学部

北岡 伸一

TEL. 03-3985-2566

FAX. 03-3983-0174

## 1997年度研究会企画に関するお知らせ

1997年度企画委員長 小 林 良 彰

### 〈委員会の構成について〉

1997年度企画委員会は、来年、10月に成蹊大学で行われる研究会に向けて、次のメンバーで発足致しました。

秋月謙吾（京都大学）、亀嶋庸一（成蹊大学）、神江伸介（香川大学）、小林良彰（慶應義塾大学）、阪野智一（神戸大学）、進藤兵（名古屋大学）、田中明彦（東京大学）、寺崎修（駒沢大学）、宮村治雄（東京都立大学）、古矢旬（北海道大学）、吉野孝（早稲田大学）、山田辰雄（慶應義塾大学）  
（五十音順）

### 〈自由論題公募について〉

10月6日に第一回企画委員会を行い、「自由論題」での報告を、会員の方から下記の要領で、公募することに致しました。このニュース・レターに同封のお申し込み用紙で、御応募頂ければ幸い

です。なお、応募された報告御希望の採択は、企画委員会で行います。

- ・締め切り：1996年12月20日（消印有効）
- ・応募資格：日本政治学会会員であること
- ・報告条件：未発表の内容であること  
：1997年9月15日までに、報告論文を提出すること
- ・申込先：郵便番号108 東京都港区三田  
2-15-45  
慶應義塾大学法学部 小林良彰

### 〈報告テーマについて〉

97年度日本政治学会研究会の共通論題、もしくは分科会で取り上げるべきテーマについて御意見をお持ちの方は、下記まで、御遠慮なく、お申し出頂ければ幸いです。

- ・締め切り：1996年12月20日（消印有効）

# 学 会 ニ ュ ー ス

・申込先：郵便番号108 東京都港区三田2-15-45  
慶應義塾大学法学部 小林良彰

合わせの方は、下記まで御連絡頂きたく存じます。

・住所：郵便番号108 東京都港区三田2-15-45  
慶應義塾大学法学部 小林良彰

〈問い合わせ先〉

その他、97年度研究会の企画について、お問い合わせ先

・TEL : 03-3769-4748

・FAX : 03-3769-4748

## 1996年度第1回理事会記録

日時 1996年6月22日(土) 午後1時から2時30分まで

場所 東京学士会分館

1996年度第1回理事会では、理事長から挨拶があり、学術会議の学術団体登録に関する協力について謝辞が述べられた後、以下の事項が報告・承認された。

### 1. 各委員会報告

#### (1) 企画委員会

蒲島96年度企画委員長から、研究会の報告レジメの締め切りを6月30日に設定しているのによりよくご協力願いたい旨の報告があった。

#### (2) 年報委員会

##### 【1996年度】

佐々木96年度年報委員長から、現在は原稿集めの最終段階であるが、公募論文4本についてはすでに提出されており、研究会で準備した論文についても提出が間近である旨の報告があった。

##### 【1997年度】

五百旗頭97年度年報委員長から、申請していた科学研究費が承認されたこと、近々共同研究のための合宿を行なう予定であること、公募論文の申込が10数件に達していることが報告された。

#### (3) 文献委員会

渡辺96年度文献委員長から、会員から寄せられた研究業績の申告が最終的には253件になったこと、現在各文献委員による「学会展望」の原稿執筆が進行中である旨の報告があった。

#### (4) 国際交流委員会

北岡委員長から、1996年度の研究会にAPSAからClyde Wilcox氏(Georgetown University)を、ECPRからPatrick Dunleavy氏(London School of Economics)を招聘する予定であること、APSAから招聘する予定のもう1名について

は未定であること、ペーパーの提出は出来るだけ早い時期を期待していることが報告され、承認された。

なお、大獄理事から本年12月5～7日にECPRとの共同研究を京都で開催する予定であるが、資金面の心配はない旨が報告された。

#### (5) 非欧米圏との交流に関する委員会

渡辺委員長から、委員会の「第二次報告」が示され、協議の結果、大略以下のとおり承認された。①国際交流委員会に、非欧米圏との交流に関する小委員会を設け、小委員会は、企画委員会及び研究会開催校との緊密な連絡の下に、年次研究会に相応しいと考えられる非欧米圏の研究者を選定して、その招聘を実現し研究会における交流を援助する。②小委員会の事務的経費は、原則として国際交流委員会の予算から支出する。③招聘研究者の旅費・滞在費等は、原則として、IPSAラウンド・テーブル組織委員会からの寄付金から国際交流基金に繰入れた後の残額を含む一定額から支出する。各年度支出額は、理事会において決める。④年次研究会への研究者招聘は、1997年度以降実施するものとし、当面、招聘する研究者は1年に1名とする。

#### (6) 事務局が保管する会員情報の利用に関する委員会

理事長から、(一)将来における会員情報の利用希望がどの程度、どのような形態で出されるか予測がつかない現時点で一般的なルールを作成することは妥当でない、(二)今回の田口富久治理事からの要請については、会員名簿記載の会員情報を田口理事が統計的に処理する作業を、時間的余裕のあるときに事務局が助力するという形で処理したい、という委員会の結論が報告され、了承された。

2. 研究会準備にかかる予備費の支出に関する件  
常務理事から、1996年度研究会開催校北海道大学の田口晃理事から出された研究会に関する収支見積りによれば、15万円の資金不足が予測される旨

## 学 会 ニ ュ ー ス

の報告があり、それを踏まえて理事長から、前回理事会で予備費からの追加支出が承認されていることに鑑み、不足分に関する予備費からの追加支出について前向きに考えたい旨の提案があり、了承された。

3. IPSA 世界大会に関する件ならびに IPSA 分担金に関する件

佐々木 IPSA 執行委員会委員から、1997年の世界大会が韓国で開催されるにつき会員多数の参加を希望すること、この件を次回発行の会報で会員に通知したいこと、また、2000年世界大会の開催地がケベック・シティーにほぼ決定したことが報告された。

さらに、IPSA 分担金の見直しが進んでおり、

日本政治学会の分担金（1730ドル）の改定が予想される旨が報告された。

4. 新入会員承認の件

以下の20名の入会が承認された。

河崎 健、稲継 裕昭、三輪 博樹、高藤 英樹、森 裕城、小関 素明、金田 耕一、小川 有美、兵頭 淳史、中西 武史、馬場 義弘、井竿 富雄、安武 真隆、石生 義人、岩井 義和、高嶋 由美子、廣瀬 聡、山本 啓、天川由記子、小枝 義人

5. 次回理事会の日程の件

次回理事会を1996年10月5日（土）北海道大学で開催することが決定された。

### 1996年度第2回理事会記録

日時 1996年10月5日（土）午後12時から1時30分まで

場所 北海道大学学術交流会館

1996年度第2回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

1. 理事長から本年度研究会の開催につき、開催校北海道大学ならびに、蒲島企画委員長への謝辞が述べられた。

又、日本学術会議より、9月10日付けで、学術団体として本学会が登録された旨の通知があったことが報告された。

2. 各委員会報告

(1) 企画委員会

蒲島96年度企画委員長から、本年度研究会が順調に進行していること、国際研究交流特別分科会に Ben Ginsberg 教授が突然来日できなくなったこと、代わりに Herbert Weisberg 教授が研究発表をすることになったことが報告された。

(2) 年報委員会

【1996年度】

佐々木96年度年報委員長から、96年度の年報の校正が終了したことが報告された。

【1997年度】

五百旗頭97年度年報委員長から、97年度年報について執筆が順調に進んでいることが報告された。

(3) 文献委員会

渡辺96年度文献委員会から、原稿がそろい、期限通りに運んでいる旨の報告があった。

(4) 国際交流委員会

北岡96年度委員長から、国際研究交流特別分科会 Ben Ginsberg 教授が突然来日できなくなったこと、代わりに Herbert Weisberg 教授が報告されることになったことが報告された。今年の APSA 大会に蒲島理事、飯田会員（神戸大学）が参加したことが報告された。

3. その他

(1) 新入会員承認の件

以下の23名の入会が承認された。

魚住弘久、坪内 淳、大杉 覚、大場崇代、加藤浩三、木暮健太郎、橋川俊忠、佐藤 晋、高安健将、中島信吾、中村祐司、広本政幸、藤間みゆき、福田大治、藤田潤一郎、堀口良一、御巫由美子、三浦信行、毛 承豪、山崎幹根、スティーブン・R・リード、Jonathan Lewis、David R. Lehny

(2) 事務局報告

的場常務理事から次号会報への執筆希望者は10月末日までに旧事務局まで原稿を送付するよう依頼があった。

(3) 理事長から、現理事会の任期の終了に当たって、(-)前理事会からの引き継ぎ事項の一つ、国際交流の一層の促進については、APSA、ECPRとの交流における発展に加えて、非欧米圏との交流についても、委員会を設置して今後の交流のた

## 学 会 ニ ュ ー ス

めの枠組みを定めることができた、(二)もう一つの引き継ぎ事項、資金の有効活用については、IPSA ラウンドテーブル準備金からの寄付金の内、500万円を国際交流基金に繰り入れ、予備費に入れた残りの70万円余を非欧米圏との交流のための原資とするという合意がなされたので、今後運用

されることを期待したい旨述べられ、併せて、(三)当学会も会員が1355名と大きくなり、事務処理が複雑になって、事務局費が窮屈になるなどの将来的に対応すべき問題が生じてきた旨の指摘があった。

4. 最後に理事長より退任の挨拶があった。

### 1996年度 第3回理事会記録

日時 1996年10月5日(土)午後0時50分から1時15分

場所 北海道大学学術交流会館

1996年度第3回理事会(新)では、佐々木理事長の挨拶の後、以下の事項が報告・協議された。

#### 1. 常務理事推薦の件

理事長より、常務理事として馬場康雄(東京大学)会員を推薦したい旨の提案があり、承認された。

#### 2. 各委員長選任の件

理事長より、以下の通り各委員長が選任された旨の報告があった。

企画委員会

1997年度 小林良彰理事(慶応義塾大学)

1998年度 渡辺浩理事(東京大学)

年報委員会

1998年度 北岡伸一理事(立教大学)

1999年度 加茂利男理事(大阪市立大学)

文献委員会

1997年度 北住炯一理事(名古屋大学)

1998年度 加藤秀治郎理事(京都産業大学)

選挙管理委員会

的場敏博理事(京都大学)

国際交流委員会

大嶽秀夫理事(京都大学)

#### 3. 幹事委嘱の件

理事長より、新幹事を飯尾潤(埼玉大学)、福田有広(東京大学)両会員に委嘱したい旨の提案があり、承認された。

#### 4. 臨時総会開催の件

理事長より10月6日(日)に臨時総会を招集することが報告された。

#### 5. 次回理事会の日程の件

次回理事会を10月6日(日)、北海道大学で開催することが承認された。

### 1996年度 総会記録

10月5日(土)、理事会に引き続き、午後1時より、1996年総会が開催された。議事次第は以下のとおりである。

1. 開会挨拶 北海道大学 田口理事

2. 理事長挨拶 村松理事長

#### 3. 各委員会報告

企画委員会(1996年度) 蒲島委員長

年報委員会(1996年度) 佐々木委員長

(1997年度) 五百旗頭委員長

文献委員会(1996年度) 渡辺委員長

国際交流委員会

北岡委員長

非欧米件との交流に関する委員会

渡辺委員長

4. 1995年度決算・監査の件 的場常務理事

飯島幹事

5. 1996年度予算の件 的場常務理事

6. 次期理事長挨拶 佐々木次期理事長

7. 役員選任の件 佐々木次期理事長

8. 閉会挨拶 田口理事

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 1996年度 第4回理事会記録

日時 1996年10月6日(日)午後0時から1時20分

場所 北海道大学学術交流会館

1996年度第4回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

### 1. 各委員会報告

#### (1) 企画委員会

小林委員長より、下記の通り委員を選任した旨の報告があった。

秋月謙吾(京都大学)、亀嶋庸一(成蹊大学)、神江伸介(香川大学)、阪野智一(神戸大学)、進藤兵(名古屋大学)、田中明彦(東京大学)、寺崎修(駒沢大学)、宮村治雄(東京都立大学)、古矢旬(北海道大学)、吉野孝(早稲田大学)、山田辰雄(慶應義塾大学)

また、分科会の企画については応募状況を見て構成を考えること、非欧米圏との国際交流企画のために、分科会の数を増やす可能性があることが報告された。

これに関連して理事長より、1996年研究会の経験について議論することが提案され、蒲島理事(前企画委員長)および山口理事(開催校)より問題点の指摘があり、議論された。主な論点は報告原稿(ペーパー)のコピーが報告者の負担となっていることの問題点、非会員を報告者とすることの是非、開催校の負担の問題などであった。

#### (2) 年報委員会

北岡委員長より、98年度年報の中特集1のテーマを「アジア主義」とし、研究会を組織するとともに科研費を申請する予定であり、この特集についても若干の応募原稿を収録する方針であること、中特集2のテーマを「日本政党史の諸問題」とし

て55体制成立以前の日本の政党についての論文を公募する旨報告された。

また、年報の構成、公募制のあり方についても若干の議論が行われた。

#### (3) 文献委員会

北住委員長より、作業日程としては12月に業績の自己申告の呼びかけを行い、明年1月に申告を締め切り、2月に文献委員会を開いて学界展望の執筆方針を決定、7月までに執筆という日程であること、また委員の構成については次回理事会で発表することが報告された。

#### (4) 国際交流委員会

大嶽委員長より、研究会における国際交流のあり方について、日本側の報告を強化することなどスタイルを再検討する点、国際交流に関する資金の制度化の必要性、ECPRと共同研究を構想している点、非欧米圏との交流ではまず韓国との共同研究を始める方針であることが報告された。また国際交流委員会の組織や委員については次回理事会で報告することとされた。

#### (5) 選挙管理委員会

的場委員長より、次回理事会までに委員を選任し、明年4月に実質的な活動を開始する方向で準備していることが報告された。

### 2. 入会承認の件

下記の8名の入会が承認された。

相内眞子、尾藤孝一、小島和貴、高橋一行、永田尚三、中村虎彰、宮本光雄、森啓

### 3. 顧問委嘱の件

理事長より、村松岐夫前理事長を顧問に委嘱することが提案され、承認された。

### 4. 次回理事会の日程の件

次回理事会を12月7日(土)、京都で開催することが承認された。

## 1996年度 臨時総会記録

日時 1996年10月6日(日)午後1時30分から45分まで

場所 北海道大学学術交流会館小講堂

### 1. 開催挨拶 山口理事(開催校・北海道大学)

### 2. 理事長挨拶 佐々木理事長

### 3. 企画委員会報告 小林理事

97年度研究会の企画について、次の会報とともに自由論題の企画を募集し、12月下旬までに応募を受け付ける方針が報告され、研究会のあり方に関して会員からの提案を11月末頃まで待っていることが表明された。

## 学 会 ニ ュ ー ス

### 4. 年報委員会報告 北岡理事

特集テーマと公募日程について説明があった。

### 5. 文献委員会報告 北住理事

活動予定とともに、学界展望のあり方について検討するために、会員からの意見を明年2月はじめまで募集していることが表明された。

### 6. 国際交流委員会報告 大嶽理事の報告を理事

長が代読

### 7. 事務局報告 馬場常務理事

### 8. 理事長報告

村松前理事長を顧問に委嘱することが理事会において承認された旨の報告があった。

### 9. 閉会挨拶 山口理事

## 1996年度総会・研究会開催される

1996年度の総会・研究会は、10月5日(土)、6日(日)の両日、北海道大学において開催された。アメリカ政治学会からは、Professor Clyde Wilcox (Georgetown University)、Professor Herbert Weisberg (Ohio State University)、また ECPR

からは Professor Patrick Dunleavy (London School of Economics)が参加した。3教授は、特別に組織された国際研究交流分科会において、それぞれ報告を行った。いずれの報告に対しても活発な質疑が行われ、交流の実があげられた。

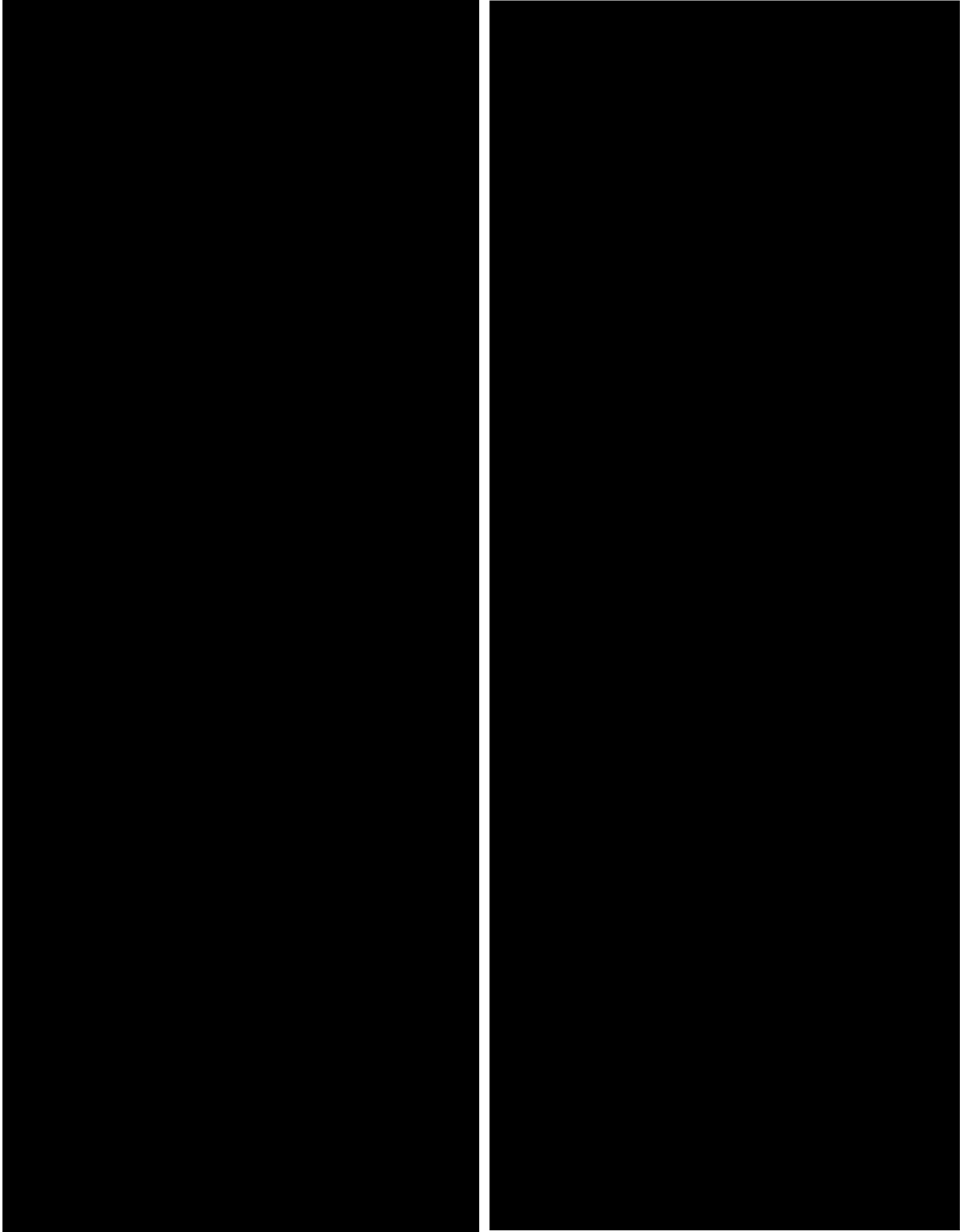


---

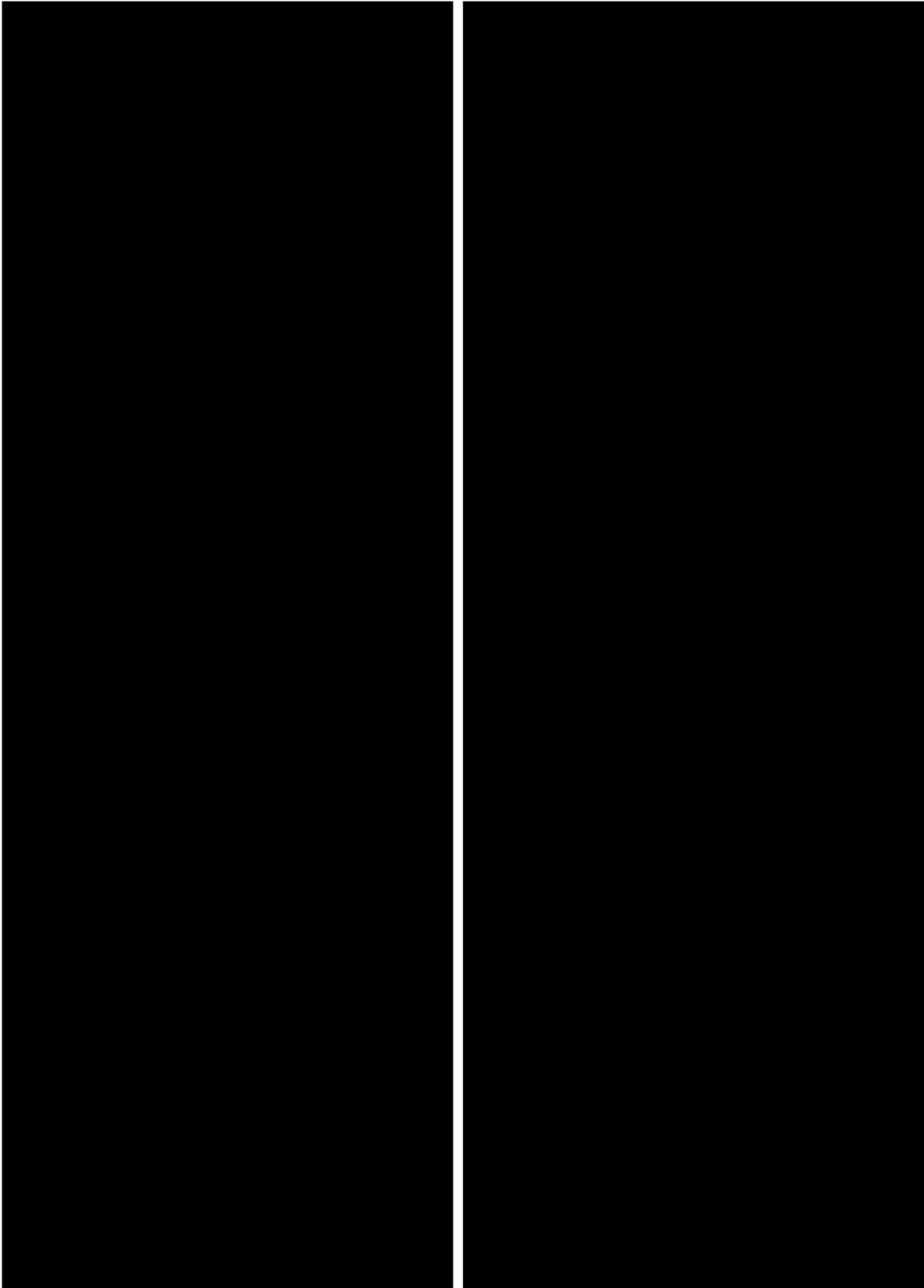
学 会 ニ ュ ー ス

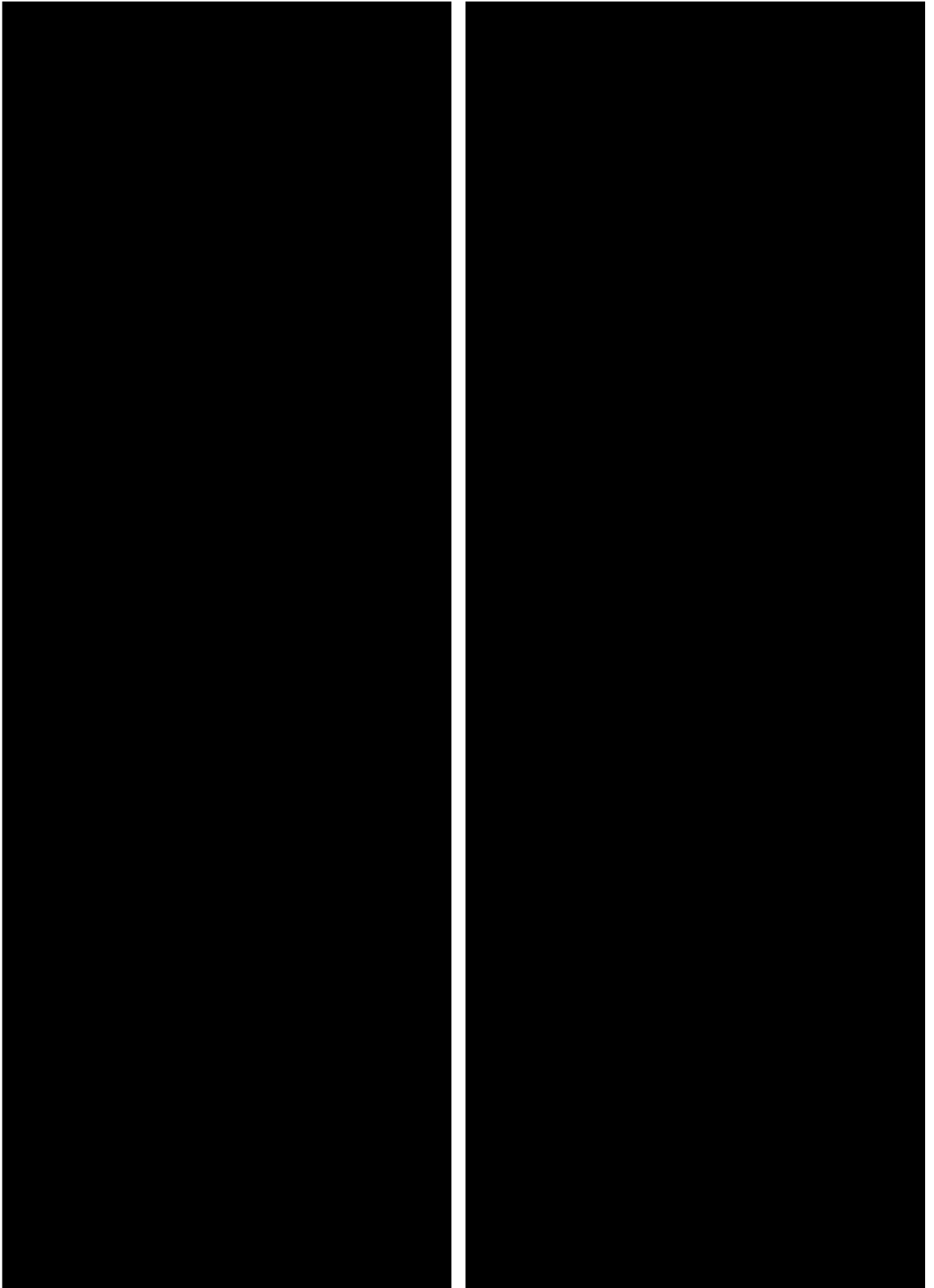
---

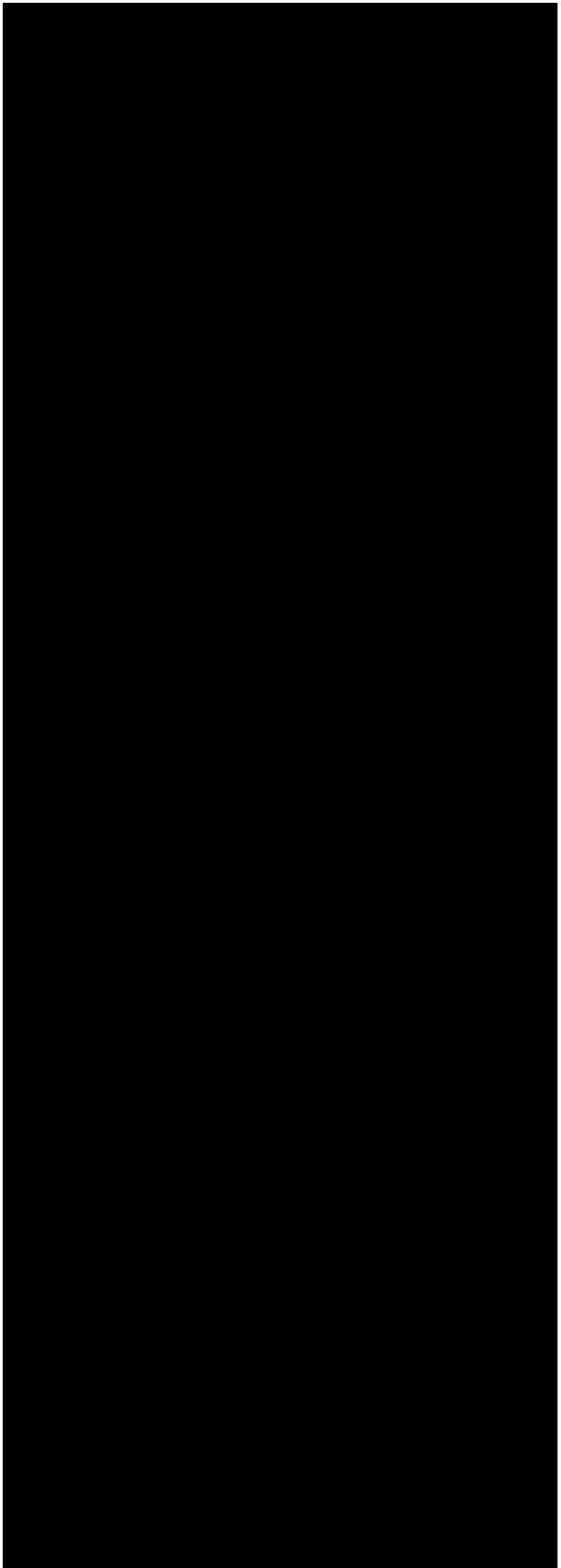
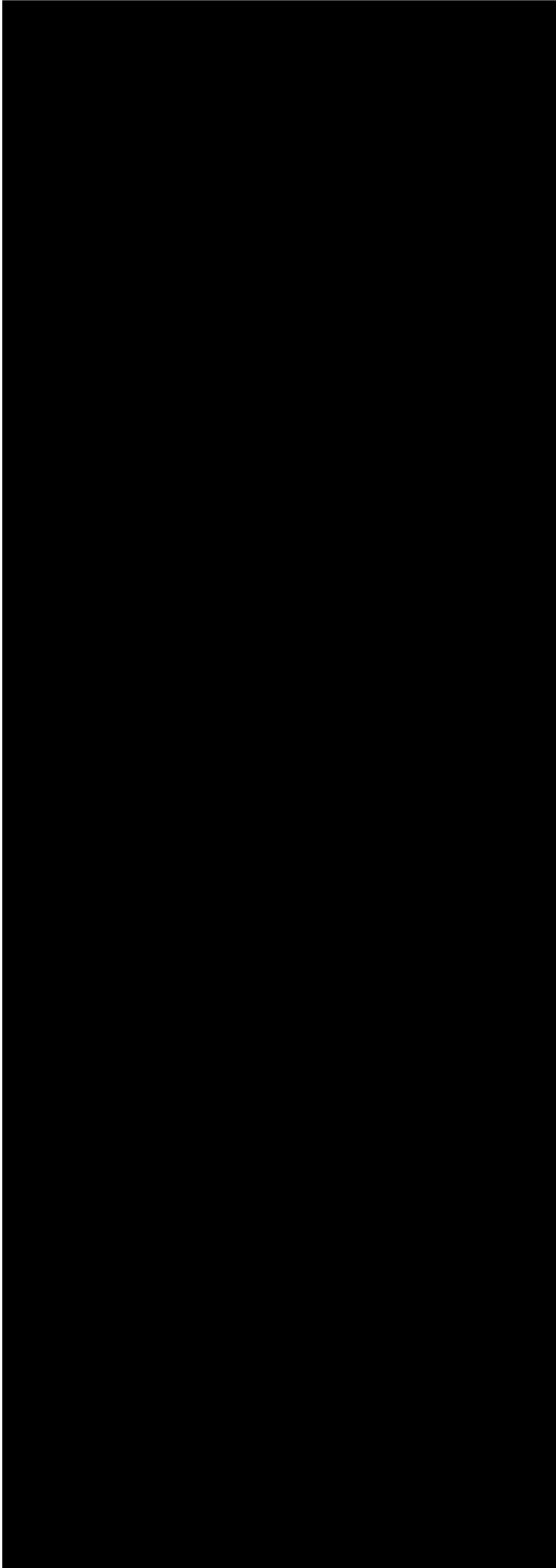
会員の異動 (1996.4.27 ~1996.10.19)

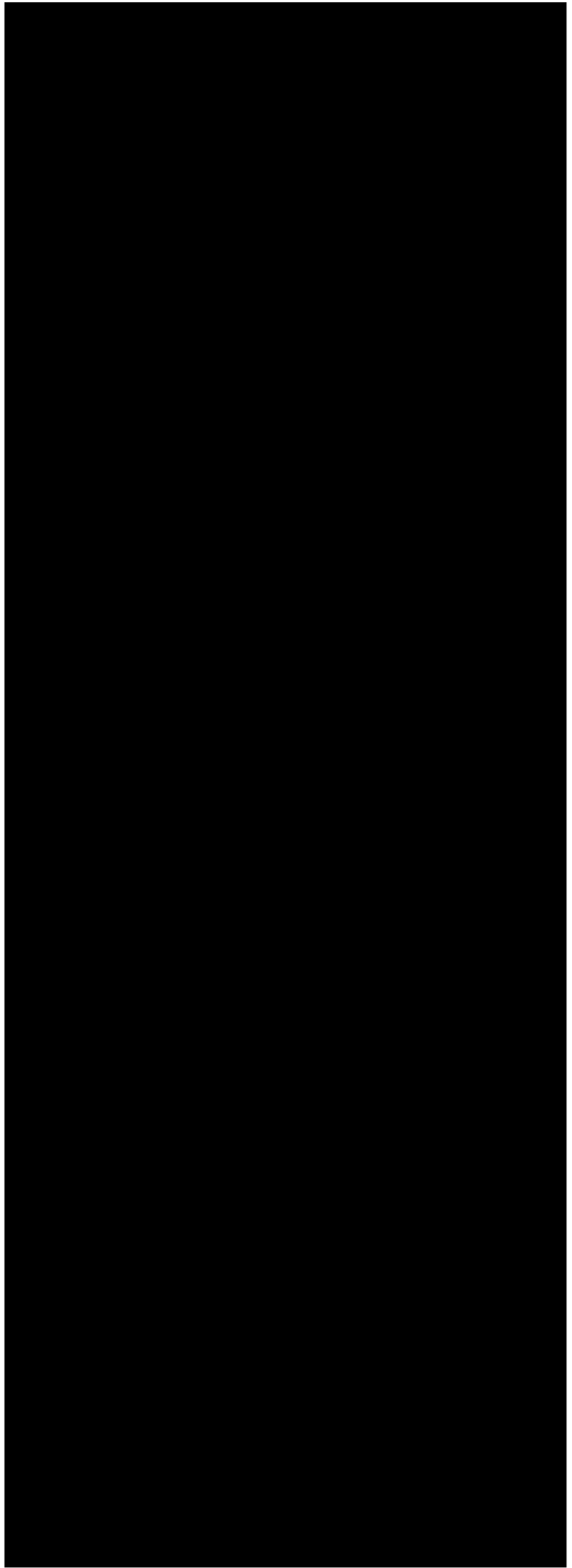
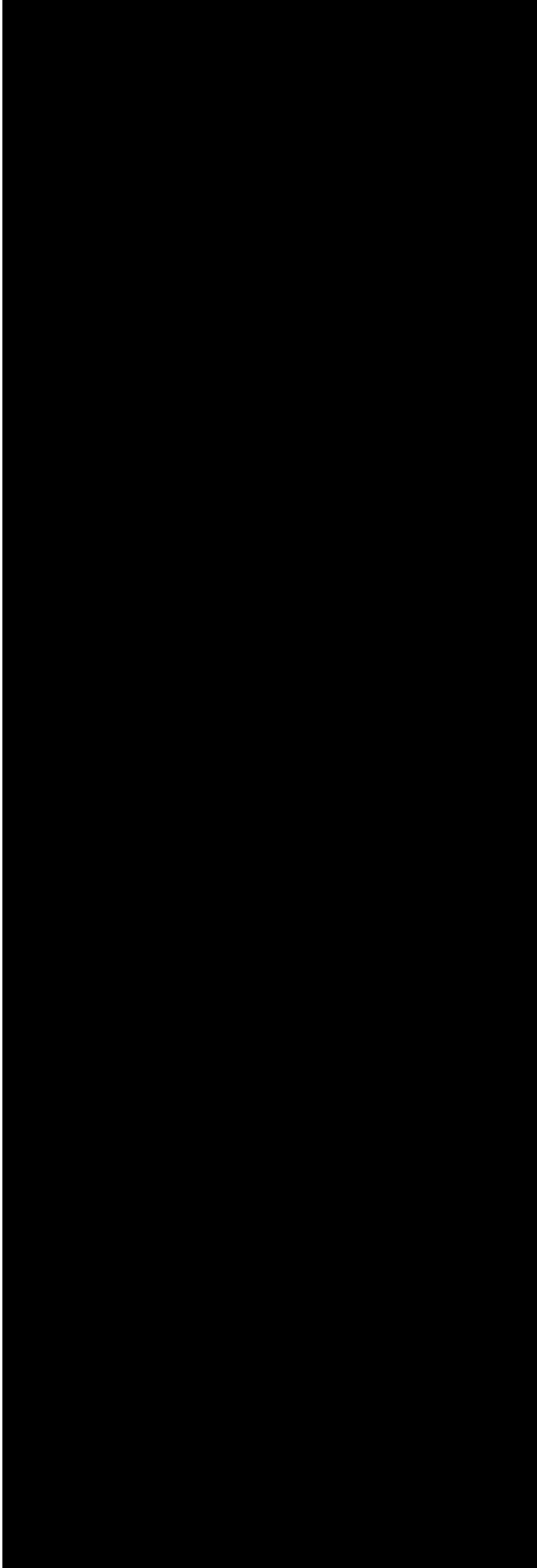








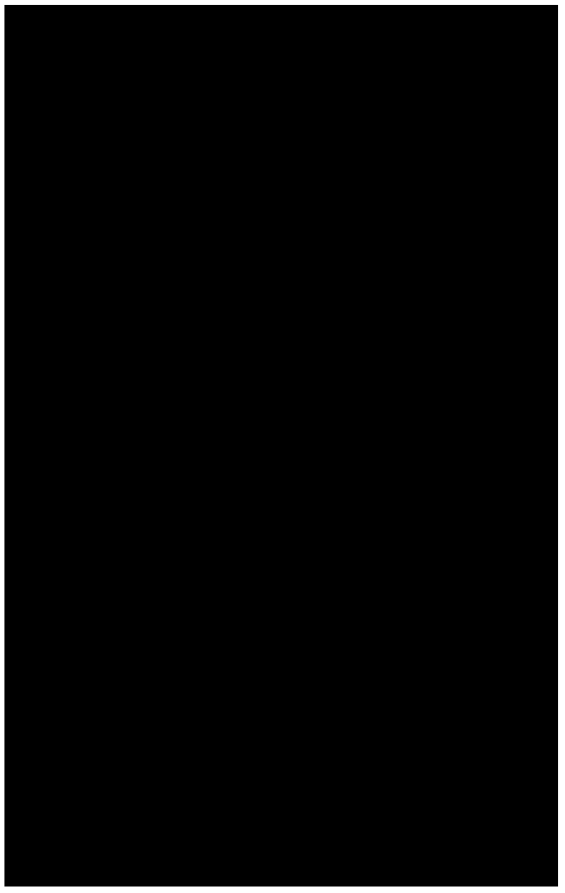
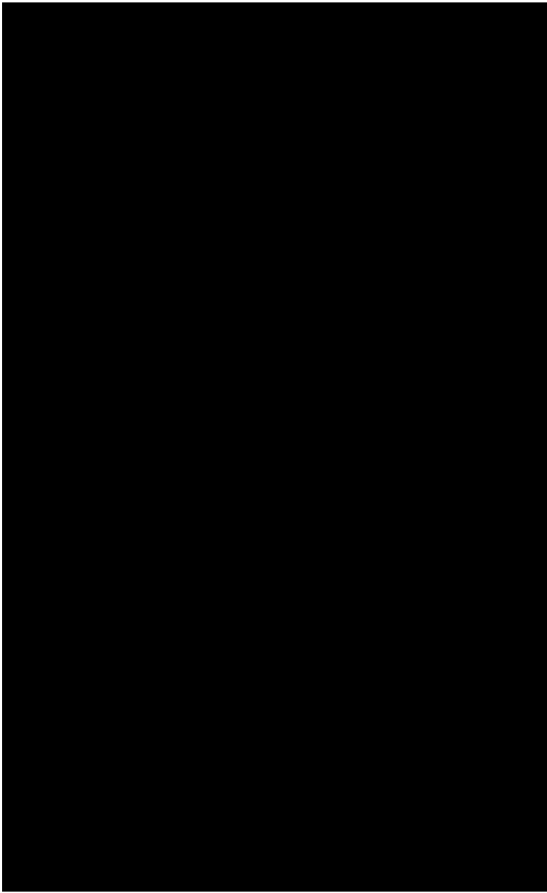




---

学 会 ニ ュ ー ス

---



# 学 会 ニ ュ ー ス

## 事 務 局 よ り

### 事務局移転のお知らせ

1996年10月19日より、日本政治学会の事務局が京都大学から東京大学へ移転しました。新事務局の連絡先は以下のとおりです。

〒113 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学法学部研究室内  
TEL 03-3812-2111(内)3231  
FAX 03-3816-7375

旧事務局に対する会員の皆様からの2年間の御厚意に感謝いたします。新事務局へのより一層の御支援をお願い申し上げます。

### IPSA世界大会について

IPSA 世界大会が来年、韓国ソウルにて開催されます。参加希望あるいは関心をおもちの会員は、資料が届いておりますので御参照ください。そのさい、新事務局あてで封筒に「IPSA 資料請求」と明記してください。

### 会費納入についてのお願い

会費未納の会員には振込用紙を同封しております。未納額は用紙に記入してございます。2年度分以上滞納されますと1997年3月末をもって会員資格を失います。12月半ばに会費納入が確認された会員に対してのみ、12月下旬に岩波書店から今年度年報政治学が送付される予定です。それ以降に納入された方には納入確認の時点で事務局より発送します。未納額についてご不審の点がございましたら事務局までお問い合わせください。また会費を納入したにもかかわらず当該年度の年報が届いていない場合は事務局までご一報ください。

### 訃 報

下記の会員が御逝去になりました。謹んで哀悼の意を表します。

高坂正堯氏 (京都大学教授)

1996年5月15日 1934年生 国際政治学専攻。

丸山眞男氏 (日本学士院・東京大学名誉教授)

1996年8月15日 1914年生

日本政治思想史・政治理論専攻。

清水慎三氏 (元信州大学教授)

1996年10月18日 1913年生 日本政治史専攻。

### 本号の目次

### ページ

1	佐々木毅新理事長挨拶	1
2	年報論文公募について	2
3	97年度研究会企画について	2
4	理事会記録・総会記録等	3
5	会員の異動	8
6	事務局より	14

1996年12月2日

発行 日本政治学会事務局

馬場 康雄

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学法学部研究室内

TEL 03-3812-2111(内)3231

FAX 03-3816-7375

郵便振替番号 東京0-84250

加入者名 日本政治学会

印刷 昭和堂印刷所